

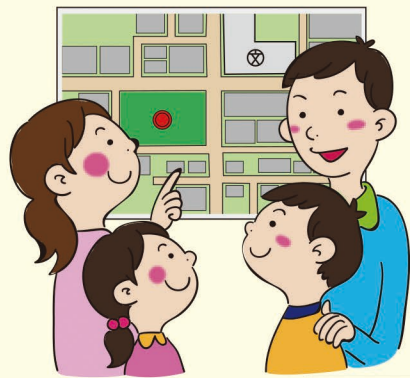
太田市防災マップについて

「もし災害が起こったら…」と想像してみてください。
いつ起こるかわからない災害で自分や大切な人を守るためには、事前の準備が大切です。
本書には参考となる情報が掲載されています。
万が一に備えて、親しい人たち、
地域の人たちと話し合っておきましょう。



防災マップの使い方

この防災マップには「自分が知っておくべき危険箇所」、「我が家の避難所」
「誰と連絡するか?」などの自分に必要な情報を書き込んで、
「あなたのための防災マップ」を作成してください。



① 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。

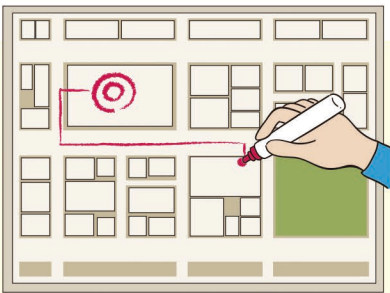
② 土砂災害などの危険な場所を確認する

土砂災害(がけ崩れや土石流)による被害が想定される範囲は、地図面に黄色または赤色で示されています。また、河川の洪水による浸水が想定される区域についても表示されています。
自宅周辺でこれらの危険な場所を確認してください。



③ 避難する場所を確認する

市で指定している避難所が記載されています。市では、地区ごとに避難する場所は指定していませんので、最も安全な最寄りの避難所の「位置」と「名前」を2箇所以上確認してください。なお、避難所までの距離が離れている場合には、あらかじめ地域で避難所となるような安全な施設(集会所など)を決め、その場所を書き込んでおきましょう。



④ 安全な避難経路を考える

自宅から最寄りの避難所(③で決めた場所)までの避難経路を考えて書き込んでおきましょう。
できるだけ「土砂災害の危険な場所」や「浸水による危険な場所」を避けて設定しましょう。



⑤ 災害時の対応のしかたを話し合う

「自宅周辺の危険箇所」、「避難所」、「避難経路」、そして「避難のしかた」について、家庭やご近所の方とあらかじめ話し合ってください。
危険が迫った時、自ら避難できるようにしておくことが重要です。
また、支援が必要な方の避難の手段などについて話し合っておくことも重要です。



⑥ 自分たちの目で避難経路を確認する

②～⑤で確認した施設や経路について、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。そのときには、「施設や経路が安全か?」を確認するとともに、避難する際に注意すべきことや目印(目標)になるものを、自分の目で確認し、共通の情報として記録しておきましょう。

⑦ 非常持ち出し品を準備しておく

P.8の左下にある、「非常時持出品」を参考に、避難するときのための非常持ち出し品について話し合い、必要なものを準備しておきましょう。

過去の浸水履歴 (2017年10月 台風21号)



石田川(粕川町)



蛇川(細谷町)



大川(新田木崎町)

